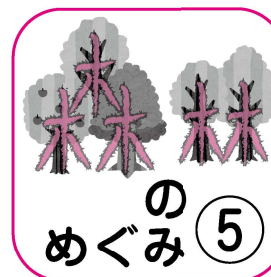


CO₂排出の原因に土地利用の変化など 健全な森林の維持が必要



歴史的に見て、「ゆるやかな寒冷化傾向」にあるはずの気温が、このところ著しく上昇し、過去10万年で最も温暖であった範囲を超えました。

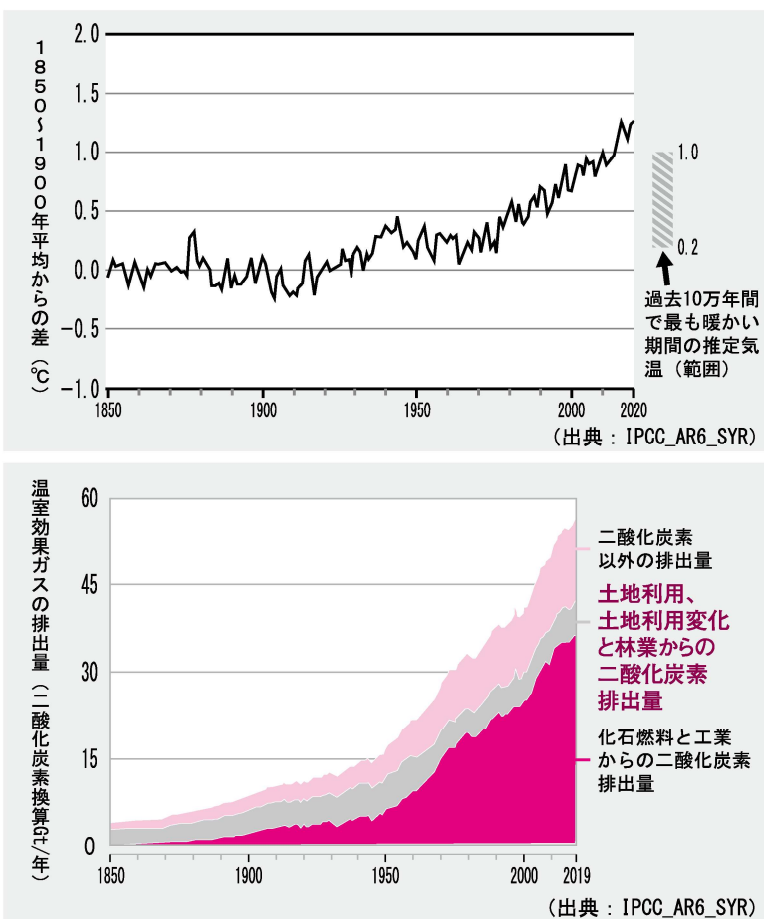
これは、「人為起源による温室効果ガスの濃度上昇」が原因であり、次のような対策が必要とされています。

- ①化石エネルギーの使用を減らし、太陽光、風水力などを用いる。
- ②大気中の二酸化炭素を閉じ込める。

とりわけ、後者に

いては森林の働きが期待されています。温室効果ガスを分類して排出量の推移を見ると、土地利用の変化と林業（木材生産）を原因とする放出量が意外に多かったことが読み取れます。森林が伐採・搬出された後、木材中の炭素は燃焼・腐朽により二酸化炭素として大気中に放出されます。伐採跡地が農地などに転用される「土地利用の変化」では、地表・地中の有機物が分解されることで、より多くの二酸化炭素が放出されます。

森林による二酸化炭素吸収とは、生きた植物体だけでなく、落葉や土壌中にも炭素を蓄えることですから、森



2011～2022年の地球表面温度は、1850～1900年と比べて1.1℃上昇している（上）、人間活動により排出される温室効果ガス（GHG）の排出量は増加している（下）

林を健全に維持することが必要です。間伐などの手入れを行うことが奨励されるのはなぜでしょうか。国際協議の場で、「日本が森林面積を減らすと、蓄積が増えているのは、外国の森林を犠牲にしているから」という意見が出ました。そこで、国別の吸収量を報告する際に、「林業経営が行われている森林のみを対象とする」とされました。森林を手入れすれば、将来は伐採と更新が正しく行われる。そうして、木材輸出国と輸入国の立場を平等化するという試みです。

（森林植物研究家 埴田宏）

人々の暮らしと関わりのある里山

広葉樹材で炭焼き試行



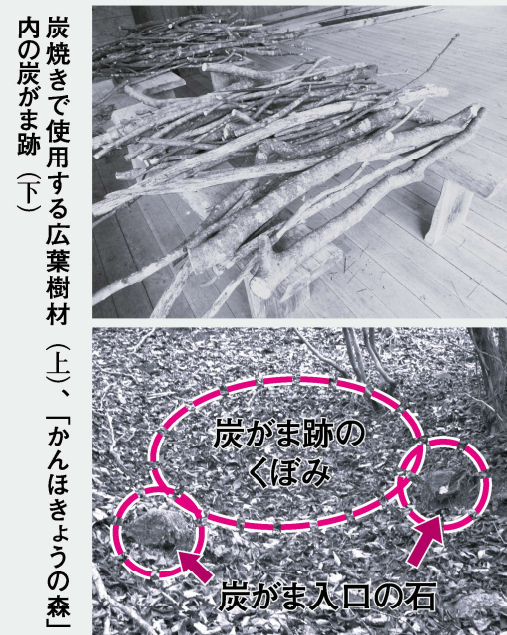
今回は、今年度に行う炭焼きについて、取り組みの背景をご紹介します。

かつて里山では、広葉樹は薪や炭の材料などとして身近に使われ、人々の暮らしと深く結びついていました。

木を切って使い、また芽吹かせるという営みの中で、森は自然と手入れされ、健全な状態が保たれていました。ところが、生活様式の変化などにより、こうした利用の機会は少なくなっています。

ど、環境の変化が見られるようになってきました。こうした状況を受け、当協会では森林整備で得た広葉樹材の新たな活用方法として、「かんぼきょうの森」が位置する場所から行われていた炭焼きを試行することになっています。

資源の価値を見直すきっかけになればと考えています。炭焼きの試行にあたっては、福富町観光協会の協力を得ながら準備を進めています。広葉樹を適度に利用することは、森に光を届け、健全な森林環境の維持にもつながります。また、炭焼きで得た炭は、災害時にも利用できる炭団

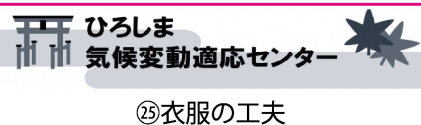


（たどん）の材料にするなど、その活用方法について研究を進める予定です。

炭焼きは昔ながらの技術であり、この取り組みがこれからの森との関わり方を考えるヒントになればと考えています。炭焼きを実施しましたら、その様子を改めて報告いたします。

（地域支援課 八島 聡美）

オシャレを楽しみ快適な夏を 服の色で最大15℃以上の差



⑤衣服の工夫

今年も暑い夏が予測され、5月の時点で既に真夏日が続出しました。身近な暑さ対策として、今回は衣類に着目します。

晴天時の屋外で、着衣の色と表面温度についての実験が国立環境研究所で行われました。写真は、同じ素材・デザインで色違いのポロシャツを、炎天下に置いて表面温度を測定したものです。

その結果、色による温度の差は最大15℃以上になり、風が弱く日射が強い日に差が大きくなりました。表面温度が最も低かったのは、白と黄色、それより少し高かったのが灰と赤、次に紫と青が高く、最も高温になったのは、緑、深緑、黒でした。表面温度は、光の反射率が高いほど低温、低いほど高温になる傾向でした。

日常生活でも、濃色のものが日光により熱くなりやすいと体感する場面が多いことから、黒の温度が高く、白が低いことは、イメージ通りと感じる人が多いと思います。一方で、緑は赤より高温でした。熱中症対策はさまざまありま

すが、外出時は服の色も対策になることがわかります。

夏は暑さだけでなく、紫外線の強さも気になるところです。一般的に、紫外線をカットする効果が高いのは、表面温度が上昇しやすい黒や紺などの濃色ですが、最近では、紫外線カット加工をされた淡色の衣類が多数市販されています。

また、熱、紫外線をカットする効果が高い日傘も有効です。日傘は強い日差しを遮り、特に頭や上半身の表面温度の上昇を防ぐことができ、汗をかく量が約17%減ったという結果を環境省が発表しています。

これらを組み合わせることで、オシャレを楽しみつつ、少しでも快適な夏を過ごしましょう。（ひろしま気候変動適応センター）



屋外におけるサンプル衣料表面温度の観測

（出典：国環研 View DEEP「環境研究のアウトリーチ活動」（2024年）の画像に文字を追記）